

つばさ川柳 願法みつる編 (139号)

『自由句』

| | | |
|-------------------|----|-----|
| 炎天下砂利に戸惑う車椅子 | 谷井 | 修平 |
| 東京へつながるリレー夢をのせ | | |
| 実質は三人だけの知事候補 | 中井 | 極 |
| 先制の核は使わぬ傘の穴 | | |
| ポケモンを追いかけてたいが気力なし | 濱田 | 喜己 |
| 天命に委ねて暮らす満ちた日々 | | |
| 秋深し虫も貧しい恋をする | 蜂巢 | 徹 |
| ご無沙汰へ味覚を送る詫び心 | | |
| 八十路でもロマン忘れず生きて行く | 藤沼 | 智弘 |
| 小池知事次は横浜待っている | | |
| 僻事が常識になる世に流れ | 堀内 | 今一步 |
| 当たらぬが外れもしない予想だし | | |
| 正座するお辞儀と土下座判らぬ子 | 若松 | 靖夫 |
| 不退転退転せぬが進まない | | |
| 田園の眺めに浸かる陽の永さ | 上田 | 将子 |
| いつの間に無くなったやらおやつ菓子 | | |
| 砂を噛み握手で越える選挙戦 | 岩崎 | 篤子 |
| もぎ取った知事の椅子では物足りず | | |
| 受賞台勝者煌めく目と涙 | 佐原 | 利幸 |
| 年増とは言うが心はギャルでいる | | |
| 意思曲げた無念を晴らす日記帳 | 末田 | 洋一 |
| ストレスに屋台の酒が効いてくる | | |

そろそろと歩く姿が稚児に似る
グビグビがチビチビになる老いの酒
人の振り倣って流れ行く大河
悔やんでも詮ない過去は豚に呉れ

田所 健

願法 みつる

課題 『急ぐ』

みつる 選

| | |
|-------------------|--------|
| 急ぐなよオリンピックじゃあるまいに | 藤沼 智弘 |
| 急がねば鬼が待ってる午前様 | 末田 洋一 |
| 待つことに慣れ過ぎちゃった平和ボケ | 濱田 喜己 |
| 急かされて終活さえも儘ならず | 田所 健 |
| 回遊の台風急ぎ去って欲し | 堀内 今一步 |
| 先僅か急がぬ時で過ぎたい | 若松 靖夫 |
| 死に時を心得ているえびす顔 | 蜂巢 徹 |
| 看板の時間告げられ徳利干す | 佐原 利幸 |
| 早く出せ昔強盗いま息子 | 谷井 修平 |
| 急ぐこと何もないまま日が暮れる | 上田 将子 |
| 秀 塞翁が馬と構えて急がない | 岩崎 篤子 |
| 秀 改憲を急ぐワケありシナの海 | 中井 極 |
| 軸 頂上へ亀それなりのハイピッチ | 願法 みつる |

「雑感 3」

今、書店の本棚に川柳の本が目立つようになった。「猫の川柳」「犬の川柳」「オフィス川柳」「シルバー川柳」「ママの川柳」「酒の川柳」・・・つまり何でも川柳の世

界である。新聞川柳には長い歴史がある。加えて現今は、「サラリーマン川柳」から始まってテレビ・雑誌・企業誌まで一般化している。

俳句と川柳がごちゃ混ぜになっっているように、短詩形の日本語遊戯が多様に人口に膾炙される現実は、今更の目くじら立てる時代では無くなってきているとも言える。憲法から始まる法律論ですら、ザルと言われる位なのだから。

ただ一つ考えて見たいことは、作者名の問題である。所謂「前句附」興行の時から、当初は作者の記名があった筈である。それを刊行本にするに当たって、作者名を省き、読者受けする句を掲載する事が狙いとなるに及んで、作者名は敢えて伏す事になったのではないか。勿論作者自身や取次所では承知できることだから、反ってその方が面白かったのかも知れない。

けれども現代の川柳が、作者名無しではあっては、ナントも無責任と取られる。句と作者名そのものすらがお遊び対象では、文芸とは言えなくなる。だから、今風川柳のお遊び世界でも、責任ある作者名を付すことによつて、責任あるお遊びの世界にすれば済むことだろう。無責任時代の社会を改革する意味でも。

また、短詩形でナニカを表出する型式を、川柳と呼ぼうが川柳風と呼ぼうが、個人に委せておけば良い。それぞれの流儀によつて楽しめば良い。

その意味からすると、「つばさ川柳」はその起点が文芸川柳志向であったという歴史から、皆さんのご協力を得ながら、その枠内に留まろうと心しています。

次号課題は「嘘」。課題句二句と自由句は三句をご投稿下さい。締切日は十一月末日です。

次号からは、自由句は三句を全て載せたいと考えます。ただ少しばかり手を入れるかも知れません。特に、時事句や説明句のご投句にはご注意ください。